

文 資 湖 總 史
書 料 外 務 實

支那史

第 28 號

主 題 電報譯 一二月一七日前後一八時一〇分發 一〇七〇〇文

次 目 宛 發信者 支那派遣軍總參謀長（陸軍）

總參一第第一一六號

中國側ヨリ左記訓令ニモセルモ電乃ニ於テハ終戦直後全部焼却シ資料
皆無ニ付東京ニ資料アラバ送付仕煩ハシ取返

左 記

直チニ中華日報二十六一年七月七日ヨリ三十四年八月十日ニ至ル間ノ
日歴次ノ會戰ニ關スル日本軍ノ作戰計畫ノ原案ヲ整理シ當節宛提出ス
ベシ

一終一

陸 軍

1822

報

文書

總務課

渉外課

地誌

主 意 電報譯 一二月一七日午前午後 一三時 二〇分 發 一五六〇〇〇 郵 文

第 16 號

文書課 長 宛 發信者 中 卸 復 員 監 部 總 務 部 長 (大阪)

中 復 復 員 電 第 一 五 號

一 復 第 五 函 號 一 總 務 課 臺 灣 及 沖 繩 二 歸 還 ス ヘ キ 人 員 ノ 件 ニ 依 ル 人 員 左 記 ノ 通 報 告 ス

五 記

臺灣ニ本籍ヲ有スル人員一臺灣人、 五名

臺灣及沖繩ニ歸還スル人員一日本人、 五名 (一六海老原三郎アリ)

一 終

陸 軍

1823

電信寫

支

叔也村理事官發令件

總番

不六十四七

符號

昭和二十年

十一月十七日

一〇時〇〇分

主管

人

在北京 楠本公便宛

第二四三號

停

吉田外務大臣發

（濱村理事官發令件）

濱村理事官十一月十七日附任大使館二等書記官（五等四級）中華
民國在勤並ニ北京ニ出張駐在ヲ命セラル
尚往電第二三九號照會ノ遺族其後ノ模様並ニ勤續賜金算出ニ必要
ナルニ付死亡當時ノ家族手當額至急回電アリ度シ

1824

電信寫

北支

總 番 號

六五五六四

管 轄

昭和二十年十二月十四日

時

分 管 主
管 二

北支電信局

支 信 員 仲 田 吉

吉 田 外 務 大 臣

在 東 亞 州 內 代 理 大 臣

吉 田 外 務 大 臣

第二三一號 (大空社)

(華北電信局人ニ關スル件)

修

華北電信局ノ輸入ニ關シテハ支那側ニテ該局派遣ノ赴ケル處盡需給通
退ノ狀次ニ照シ右此處ヲ變更シ上決定テラヘ之レカ時日。派遣員
氏名等判明次第通知アリタシ

1825

文書
海軍
交通
復員

支那存心叢書

略號

至 急電報譯

二月十六日午前八時

三分發一八〇〇〇分受

第 38 號

次 官宛

發信者支那派遣軍總參謀長(南京)

總參一電第 二七號

中國側ヨリ要求アリルニ付滿洲及北鮮ニ退却セル

華人區及支那留民數(内地人及台灣人ニ區分

已至急承テ度

(終)

陸軍

1826

文書
資半
涉外
交通
復員

外

略號

緊急

電報譯

一月七日 午前午後

三時四分

分發

一五三〇

第 號

次

官宛

發信者

支那派遣軍

總參謀長

總參

一電第 一三三號

米軍員之要求了リタルコト以テ總參一電第 一三七號

(滿洲及北鮮軍民數)ノ件各地區別(例ハ八奉

大地區(齊々哈爾地區等)ニ大至急承リ度

尚規狀不明ノ際ニ現時ノ狀況承リ度

(終)

陸軍

1827

昭和二十年十二月十七日

涉外課

長課

課長

員課



官 長
官 長
官 長
官 長

送金預り証持帰りの件

宛名 吉野源造 東京總務局長
甲午年 岡本 長

發着 總務局長

涉外電 第二六號

外務大臣より 東京、上海、北平、天津、青島

宛

合第九〇八號 (但し上海傍)

總領事官署第四四號(附錄)
送金預り証持戻りし旨し一紙印入ニ對し

總領事官署若しハ領事名義ニテ印表示送金

預り証(最高千円)ヲ發給携行せしめらし

度現地正金支店發行ノ送金預り証ハ

内地正金支店ニ於テ總領事官署若しハ領事

名義ノ送金預り証ハ日本銀行國庫代

理店ニ於テ之カ日銀券ト交換致ス付大藏省

ト諒解済リナリ

預リ金ハ責任ヲ以テ保管相成度保管

方法ニ関シテハ折返シ返マリ度

証券類ハナルヘク之ヲ持帰ル如ク現地ニ於テ

更ニ折衝相成度キ方トシテモ聯合國最高

司令部ニ極力連絡中ナリ現地ニ於テ証券

類ノ携行不可能ノ場合ハ出來得ル限リ詳細

ニテ保管証ヲ總領事若クハ領事トシテ義

ニテ發給携行セシムル度

二 尚書此ノ内ニテハ郵便貯金ノ通帳ノ

携行ハ聯合國最高司令部ヨリ許可傍

通帳支葉ノ甲

40 陸軍省

昭和三十年十二月十七日

涉外課

大臣	
次官	
局長	
課長	
課員	
課員	木

件名 上海ヨリ帰還知人ノ持帶査察ノ件

宛名 支那振遺庫總務局長 發信者 總務局長

涉外電第二七號

外務大臣ヨリ南京代理大使宛

第三三三號

貴電第三三三號ニ應ジ上海ヨリノ帰還

1832

邦人、携帶中セシ法幣ハ上海地海運局
 三米子之ヲ預リ日本円ト交換リ現
 在、所實施シ居ラス交換ニ関シ
 テハハハ決定ノ問題ト其ニ力
 促進方取違中上海ニ轉電
 也

昭和廿年三月廿



昭和二十年十二月十七日

涉外課

大	官	局長	課長	課員
／	／			
帶運				

華北塩、輸入其後、支路、件

支那作量總長
甲、支路、件

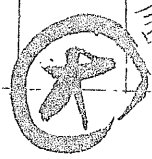
發信者 總務局長

涉外電第 二八 號

一、華北塩、輸入二周、聯合國最高司令部、

指示、基、既、信、洋、丸、(三、二、〇、〇、噸)、第、三、

真、盛、丸、(三、〇、〇、〇、噸)、清、羽、丸、(三、九、八、四、噸)、開



1834

豫州杭木約三萬本ヲ積込中ニシテハ

皇島向出發（手配中ナリ）

帰航ニカクテハ中國側ニ於テ塘沽ノ塩ヲ

積込（答口ニテ）中國側ハ既ニ三千俵ヲ作製

待機中（由ナリ）詳細判明セリ承知致度

二高岡豫ニ對スル杭木ノ輸出量ハ月三九萬

七千本ナル由ナルモ本件ノ内ニテモ貴也ノ

話合ニ承リ度

通電先 柴木 甲

昭和十年三月廿

支

明復丸ノ儀状ニ付件

元簿一復員省

支那派遺隊總

參謀長

總參謀部第九三四號

返停

差事ノ定振付

僅ナル船復茲ニ困難ナル諸隘路アルハ拘ラズ

既船セラルルヲ深謝シテ前モ十二月四日上海發ル期復丸

(六六九噸)ハ寝棚三四口坪一番船艙底ヲ利用セバ三ロ口

坪ヲ增加シ得ル見込ニシテ在り海中米機関ハ本機裝ニ於テ

二二ロ口以上ニ搭載スルハ人道ニ及ズルヲ見解ニテ許可

又機裝增加ニ時間的餘裕ナク其儘出帆也例

(裏)

1837

了り法規上ヨリスル船底機装ハ一考ヲ要スベキモ船復
不定ノ折柄起満員主義トシテ一人平均ニ餘暇ハ止令
得サルト思考ス貴方ノ見解或ハ機装量ノ指導一
針承り度
又機装ヲ擔任スベキキ責任機關ニ教示賜り度

改三

1838

支

在外信務急報

宛 次官

信部隊參謀長(ロウソク)

信電第三〇號

總參三電第六八九號返(一語不明)

調査

一元支那軍人タリシ勞務者

フロンパン市 五二名 警察ヲ保護中

市 一五七名 聯合軍ヲ保護中

市 十數名 各自ノ技能ニ應ジテ商業工業ニ

從事スルノ外或ハ學生トシテ勉學中ノモノアリ

計 三二四名

派遣軍一般勞務者

昭 三二六 四一三 八
一七六 一四〇 八
一三二 一〇三 八
六三二 五〇七 八
六〇三 四七二 八
14

0681

1839

其ノ他ノ狀況

- (1) フノ、ヘン市 二一四名 現況ハ元軍人ナリシ者ニ同シ
 - (2) サガサガ市 二三〇名
 - (3) ミト市 二〇〇名
 - (4) ミト市外 三十數名 計 四九四名
 - (1) 患者 六〇名 カント支那病院ニ入院中
 - (2) 元軍人ナリシ者タルト一般勞務者タルトヲ問ハズ先原兵團ニ於テ中國ヨリ雜役夫トシテ雇傭シアリシモノニテ終戦ト共ニ解傭セリ
 - (3) 給與ハ解傭迄ハ日本兵ト同様ナリ
- 通電先 榮、參考一復
- (終)



昭和三年十二月十八日

渉外課

大臣	次官	局長	課長	員

件名 華北臨輸入支遣員派遣ノ件

宛名 支那派遣員總務局長

渉外電 第二十九 號

外務大臣ヨリ南京宛

第二三一號

華北臨輸入支遣員派遣ノ件



1841

リ内地派遣、趣き并り遠く要給備也、
状況ニ照らし右促進方交渉、上之カ日時
派遣員、氏も等判明次第報告アリ
度

昭和廿年三月拾八日

昭和三十年十二月十八日

渉外課

大臣

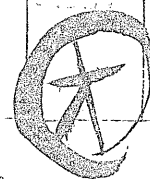
官次

局長
連帶

課長

高課

課員



件名

任村理事官飛令件

宛名

支那領事館總務局長
田中真太郎
敬信者
總務局長

渉外電第三〇號

外務大臣
北平

第二四三號

任村理事官上月七日附大使館二封

1843

書記官(五等四級)に在せし中國在勤

茲に北平に出張在る命せし

尚往電第三三九號照會の遺族其

後、模範並に勤績賜金算出に必要

ナル付死時ノ家族手当額を算

回電アリ度

通電先 紫木 甲

昭和廿年三月拾八日

支

電信寫

總 番 號
六 六 三 八 五

符 號
平

昭和二十年十二月十八日

時三〇分

主 管
二

北京公使

第二四四號

吉田外務大臣

(華勞持歸金ノ送金指圖ニ關スル件)

十一月十六日附在電第二三一 二號

華勞持歸金ノ趣進送金ハ如何指圖サレ居ルヤ實情ヲ注意送電有様

考

1845

支

電信寫

總 番 號

符 號

昭和

年

月

日

時

分

管 主

會

在 文 總 局 代 理 大 使

在 北 京 領 事 公 館

在 上 海 領 事 公 館

在 西 貢 領 事 公 館

台 南 九 一 〇 號

修

吉 田 外 務 大 臣

(在外公館の託電用人氏名簿等ニ記スル件)

電ニ通シテ起リ在外公館の託電。應員。個人(不執人ノミ)ニ對シ
テモ。同氏同姓ノ以テ。一ノ收。取三ヶ月分ノ。給料又ハ手書ハ。在
館ノミ。テ本館。係トシテ支。出シ同。職員引。揚。離。職ノ。際支。消スルコト
トシ。胎。ル。應。同。職員ノ。氏。名。而。行。又。ハ。手。當。金。及。支。辨。料。目。等。不。明。ニ
シ。又。出。上。支。消。ア。ル。ニ。付。右。ニ。記。ス。ル。一。覽。表。ヲ。作。成。シ。取。送。請。願。者。ニ。携
行。セ。シ。ム。ル。一。方。引。揚。離。職。者。ニ。ハ。各。人。ニ。右。ニ。記。ス。ル。証。明。書。ヲ。交。付。シ
本。館。出。頭。ノ。際。呈。示。セ。シ。ム。ル。由。真。實。管。下。各。公。館。長。一。覽。表。各。公。館。長。ヘ。ハ

1846

北六回、南支各公出立への上六回、南支各公出立への上六回、
りへ自然方法ヲ以テ結成シ置カレ度

1847

支

電信寫

東洋団体之對支助成令

總番號 六六二六一
六六二六二

符號 平昭和二十年十二月十八日

時

分

管主

番二

北京公使

合第九〇九號

吉岡外務大臣

修

（政府助成機關職員、津給支拂ニ關スル照會ノ件）
取寄要求參考資料ノ必要上左記團體ニ對スル政府補助金未送付ニ
件ヲ當該團體職員ノ津給手續等如何ニ支拂シ届セテ
若シ現ヨリ借入等ニヨリ支拂セム場合ハ借入先例ノ月利金繰並ニ
現在迄ノ借入總額ヲ折込シ至急回電アリ候

記

- 一。華北產業條件學術究明
- 二。華北補修改進會
- 三。蒙古總手協會

1848

六書課
總務課
渉外課
經理局

略號 信

緊急電報譯

二月八日午前午後

四時三十分

一〇〇〇点

第 23 號

第一復員部長宛

發信者

台湾軍參謀長(台北)

台參電第二一三七號

當方、歸還輸送ニ當リ、中國側ヨリ接收資料ト

致度ニ付、朝鮮南半部ヨリ歸國セル將兵及居留

民、携行許可物品員數ヲ至急報告セラレ度

(終)

陸軍

1849

北支

上海地、日銀券準備

普通 盛載

二〇二二 一八 一六 一三 一〇 〇七 〇四 〇一

死 次 官 甲部隊經理部長 (北京)

四方監査第一四七號

軍人軍用制限内持還金、携行ニ関シテハ一復電第〇號
、通り認可セラレタルモ、不明ヨリ、連絡ニ依ルニ上陸地、次員金不
足、為現在迄日銀券、兌換、實施シテラズ、且未だ支給
俸給及飯郷旅費ハ同様、理由ニ依リ内金三十圓程度ヲ
給シテ由ナルモ手持日銀券亦少ク、兌換、増額極々困難
難、事情了コ以上陸地ニ於ケル日銀券準備付格別、配慮煩シ度
通電先 總 参考 次官

(終)

支

略號

支那支給定款

(俸給ニ付ス)

至急電報

宛 次官

總經手電第百五號

支那派遣軍總參謀長(南京)

一、雜費支給ニ関スル中國訓令理字第九號(次ノ如シ)

今般集中營ノ日本軍將兵ノ待遇ハ軍政部ノ規定ニ依リ主

副食ヲ支給スル外ニ左ノ如ク雜費ヲ支給スルコトトス

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
兵	下士官	尉官	佐官	將官
毎月	毎月	毎月	毎月	毎月
二〇〇元	四〇〇元	二〇〇元	四〇〇元	八〇〇元

ス
一〇
四七
一〇
受
四
三
三
九

尚同雜費ハ日本軍將兵ノ個人ニ支給スルモノニシテ主副食以外ノ日常生活必需品トシテ必要ナル煙草甘味品齒磨粉齒刷牙便箋封筒塵紙和紙等ヲ購入スル代金ニ用スルモトス本雜費支給後ハ私米許可ニアリタル日用品煙草甘味品等現品一切支給セラル

右ノ旨各需購主官ニ支々傳達セルニ付承知スベシ

六本件ハ各軍ヲ需購主官ヨリ十一月分以降受領ノ上現物トシテ整理セシメ度

尚各部隊毎ニ一括運用シテ給與ノ圓滑ヲ期セラレ度

追ッテ本件ハ本質上俸給ニ非カルモノト解シテアリ念ノ爲

通電先 次官 各軍

(終)

支北、北、北

(案ニ復員省ヨリ廻付)

（復員省ヨリ廻付）

昭三〇、一三、一九

5

著 總連 報 泉通

發 南 連

茅一三九七七番電

信部隊十一日發電ニ依ル越北方面ノ狀況

二十日末武装解除兵器運搬品ノ引渡ヲ完了シ海防周辺地

區ニ軍二四〇〇民一二〇〇 ツウランニ軍五四〇〇集結船待中

六海軍掃海隊及工兵鐵道通信各隊ハ武装ノ儘中國軍ノ指

揮下ニ作業續行中

二般ニ治安良好特ニ安南人ノ對日感情良好ナルニ將來併軍

隊ノ進駐時ハ治安乱レ影響アルモノト認メラル

(終)

1853



電信寫

總 番 號

木木十車〇

符 號

平

昭和三十年十二月十七日

一二時

分

主 管

連三

秦皇島
塘沽領事館

終戰連絡中央事務局
第三部第二課 後

第九號

〔秦皇島 杭木配船ノ件〕

一、第三眞盛丸（約一。二五〇噸）、第一信洋丸（約一。三〇〇噸）

各々杭木積込ノ上十二月廿三日頃秦皇島到着ノ豫定

日取確定次第追而通知スル

二、一月中旬塘沽結氷迄ニ引續キ六隻配船ノ豫定

三、右配船ノ都合アリ塘沽結氷模様及鹽積取可能數量至急回電アリ

度

1854

副

軍務課

略

第 11 號

緊 急

電報譯

一月二十九日午前午後一時二分著

〇〇八三〇〇點受

次 官 宛 發信者

波 郵 隊 參 謀 長 (廣 東)

波集參電第八七號

本年八月下旬末頃廣東進過ノ南方軍同ケ大本營連絡機ニ搭乘ノ當時
 大本營參謀今井中佐第二十三軍ヨリ陸軍省宛托送セル「ラジオウム」
 ニ關シ在香港英軍司令部ヨリ調査回答方要求アリタルニ付至急回答
 相煩度
 追ツテ英軍側ハ右判明次第直接之ヲ接收ヲ急ギアル趣ナリ

左 記

「前記「ラジオウム」ノ所在及保管責任者

差 異

厚務課 村中出

1855

三塊伊管責任者ニ渡シタル總緯ノ概要

一終

1856

郵官
事務課
參謀本部

略號

緊急自心電報譯

一月三日午前午後

三時三十分著

第 1 號

次官宛

發信者

波部隊參謀長(大東)

波集參電第一三八號

收集參電第八七號一件至急返煩之度

(啓)

陸軍

1857

今井少佐

「ラヂウム」受託ヨリ紛失ニ到ル懸障

昭和廿年八月十九日閑院宮春仁王殿下ニ隨行南方支那ニ墾旨傳達ノ爲到ル

前述廣原飛行場ニ立寄りタル際第二十三軍團官ヨリ「ラヂウム」ヲ依託セラル（箱ノ蓋ニ入りタル磁メテ蓋キモノ）ケニシテ「ラヂウム」含有量ハ^{ガゴ}ミリグラム

「ラヂウム」ハ飛行機ニテ携行シ他ノ荷物ト共ニ自宅ニ運搬セリ
船隻等市ヶ谷^{海軍}貨運船ヲ置クハ一役ニ危険視セラレアリシヲ以テ
本「ラヂウム」ヲモ其儘自宅ニ保管シアリキ

十一月二十八日夜（小生通番ニテ不在家ニハ妻、子供（長男）及弟（十三才）ノ三名ノミ留守シアリ）蓋然ニ違ヒ他ノ物品若干ト

其ニ奪取セラレタリ

盜難ノ件ハ留守ノ者亞朝氣付キ小生ニ報告セリ侍ニ爾后搜索處置

ニ當ラシマス

四 伊藤中佐（支那派遣軍參謀）ヨリ二十七日支那湖カ本「ラヂウム

ヲ返却シ賈ヒタキ意向アルヲ聞キ其所在ヲ尋ネラレタルヲ以テ小

生保管シアル件報告シ置キタリ

尙右紛失ノ件直チニ伊藤中佐ニ報告セリ

五 尙本「ラヂウム」ハ香港總督部カ個人ヨリ購入セルモノナリト

六 「ラヂウム」受託ノ件ハ陸軍省ニ何等申シアラス（小生ノ失念）

参 考

「英國カ本「ラヂウム」ヲ租ヒアルコトヲ伊藤中佐洩シアリ」

（新谷長、京原）

1259

陸軍

ヲケウハ送付ノ件通牒

明治五年八月二十三日

波集團參謀長

陸軍省軍務局長殿

首題ノ件別封ノ通送付ス

追テ本品ハ總量量入三三應ニテ香港總督部ニ於テ
個人ヨリ購入セルニ充テ付為念

納川助京東

1860

「ナガシム」保管依託件

昭和三十年十月一日 總務局渉外課

文書課御中

別紙爲「通」波部隊ヨリ送付アリシレ書連

「ナガシム」一個貴課全庫ニ嚴重保管

方依託致度

1861

注意

（本審案用紙ハ三年以内保存ノモノニ使用フルモノトス）

<table border="1"> <tr> <td>大官 受領</td> <td>大臣 受領</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		大官 受領	大臣 受領	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	<table border="1"> <tr> <td>主務 受領</td> <td>主務 受領</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		主務 受領	主務 受領	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
大官 受領	大臣 受領										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
主務 受領	主務 受領										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
<table border="1"> <tr> <td>大臣 受領</td> <td>大臣 受領</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		大臣 受領	大臣 受領	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	<table border="1"> <tr> <td>主務 受領</td> <td>主務 受領</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		主務 受領	主務 受領	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
大臣 受領	大臣 受領										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
主務 受領	主務 受領										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
<table border="1"> <tr> <td>行次後</td> <td>行次後</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		行次後	行次後	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	<table border="1"> <tr> <td>局長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		局長	局長	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
行次後	行次後										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
局長	局長										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
<table border="1"> <tr> <td>局長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		局長	局長	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	<table border="1"> <tr> <td>局長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		局長	局長	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
局長	局長										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
局長	局長										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
<table border="1"> <tr> <td>局長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		局長	局長	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	<table border="1"> <tr> <td>局長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		局長	局長	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
局長	局長										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
局長	局長										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
<table border="1"> <tr> <td>局長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		局長	局長	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	<table border="1"> <tr> <td>局長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		局長	局長	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
局長	局長										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
局長	局長										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
<table border="1"> <tr> <td>局長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		局長	局長	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	<table border="1"> <tr> <td>局長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		局長	局長	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
局長	局長										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
局長	局長										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
<table border="1"> <tr> <td>局長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		局長	局長	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	<table border="1"> <tr> <td>局長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>昭和 年 月 日</td> <td>昭和 年 月 日</td> </tr> </table>		局長	局長	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
局長	局長										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										
局長	局長										
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日										

姓名	今井サ佐 托送「ラジウム」ニ関スル件
件名	同上
受領	同上
番	同上
審	同上
決裁	前課長
運	同上
回	同上
調	同上
査	同上
名	同上

大臣	原	主務	吉
次官	美山	副官	音作
主務副官	小林	主務副官	林中
書記		書記	

一復電

次官ヨリ支那派遣軍總參謀長波部隊參謀長宛（至急）

波集考電オハ七号関联

今井サ佐托送ノコラジウレハ貴電ニ依リ初メテ

今井サ佐ヨリ提出シ本省ニ保管シアリ

貴通牒ニ依レバ本員香港總督部が個人

ヨリ購入セルモノナルモ英側ニ送還ヲ要スル理由

1863

及引治要領

通電先

浪承在

参考

支總

陸軍

八六〇號

1864

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

注意

(本審案用紙ハ三年以内保存ノモノニ使用スルモノトス)

保存期限	決裁指定	決行指定
------	------	------

大臣委		件名		受領番	政務次官 參與官 回付
局長 主務 (吉)		香港ラジウムノ件		後決裁	連帶 後決裁 後決裁 後決裁
次官 委		政務 次官		起元廳(課)名	
局長 決行		高級 副官 美山		決行(決裁)後 回覽課名	
局長 長課 昭和二十一年三月 復電十八号		主務 課長 小田		書記官	
局長 長課 稲美		主務 副官 官房御用掛 計 小林		審案 筆記者	
局長 長課 主務課員 村中					

陸軍

1865

一復電

次官ヨリ波集團参謀長宛(至急)

波集参電(八七号)同(一三三号)二十九日受領

目下調査中ナリ判明次第連絡ス

1866

參謀本部

①

略 號

緊 急

電報譯

一 月

廿 日

午 前

後 一 時

二 時

一 〇〇

分 著

〇〇

八 八

〇〇

〇〇

〇〇

點 受

第

11

號

參謀本部

次 官

宛

發信者

波 參

參 謀

長

一 廣 兼

波集參電第八七號

本年八月下旬末、廣東邊境通過ノ兩方軍同ケ大本營連絡機ニ搭乘ノ當時

大本營參謀今井中佐第二十三軍ヨリ陸軍省宛托送セル「ラジウム」

ニ關シ在香港英軍司令部ヨリ調査回答ヲ要求アリタルニ付至急回答

相煩敷

追ツテ英軍側ハ右判明次續直接之ヲ接收ヲ急ギアル趣ナリ

左 記

「副記「ラジウム」ノ所在及保管責任者

1867

二塊伊管責任者ニ換シタル繪繪ノ概要

一終

1868

副官

軍務課

參謀本部

參謀本部

①

略號

第 〇 號

緊急電報譯

一月二十九日午前午後

三時三十分著

三三〇〇

次官宛 發信者 波部隊參謀長(本東)

收集參電第一三八號

收集參電第八七號一件至急返燭之度

(略)

陸軍

1869

今井カ佐

ラガム受託り給失言到ル経緯

一昭和廿年八月十九日 浦安宮春仁王隨行南方支那
聖旨伝達後到此

帰途廣東飛行場ニ立寄り此際亦二十三軍副官

ラガム依託セル一紙ニ入り此極メテ手キテ

ラガム含有量ハ 833 ミリグラム

二ラガムハ飛行機ニ携行シ他荷物ト共ニ自宅ニ

運搬セリ

終戦時キ台ニ長き品ニ置キハ一紙ニ記シテ

シラテ本ラガムヲモ其後自宅ニ保管シテ

三十月二十八日夜一小生週為ニ在 家ニ妻ニ使(長男)及

身(十歳) 三名ノ留手シテ 遺難ニ降ヒ他

物品若干ト共ニ印刷セラレタリ

遺難 伴ハ留手 尋親氣件キ 小生ニ報告

セリ 特ニ此後捜索ハ遺手ニ實施シマラス

四伊府中統一支那軍参謀(号ニ十七日支那側ガ

手ラガムヲ返却シ世帯ヒキ意向ヲ聞キ

其後在リ尋手ニタリ以テ 小生保長ニシテ

報告シ果タリ

尚右給失 伴直ニ伊府中統ニ報告セリ

五前年(昭和十九年)香港総督部カ個人ヲ捕ハセ

ナリト

六前年(昭和十九年)伊府中統ニ報告申シマス

(小生 失念)

英ロカボ
粗ヒコ
伊府中統
捜索